

1922(大正 11)年～2019(令和元)年

1. 経歴・狭山市とのかかわり

狭山市生まれ、所沢商業学校(所沢高校)卒業。歴史研究会会員、元狭山市文化財保護審議会委員、元狭山市史編纂委員、元狭山市美術・工芸専門調査委員。

狭山市史編纂委員を務めたことがきっかけとなり、古代史に興味を持つようになる。そして、仲間と全国の神社巡りをする中で『先代旧事本紀』に出会い、研究が始まる。



2. 主な業績

①主な著書

『狭山市の社寺誌』(狭山市教育委員会)、『先代旧事本紀 訓註』(新人物往来社)、『先代旧事本紀 訓註』(批評社)、『河鍋暁斎 逸話と生涯』(近代文芸社)、『神々の原像』・『日本建国神代史』・『日本建国の三大祖神』・『皇祖神 饒速日大神の復権』・『日本国始め 饒速日大神の東遷』・『武蔵国の国道 伊利麻路』(以上批評社)、その他古代史論文多数。

②研究の歩み

独学による研究は、狭山の社寺をはじめ全国の社寺・遺跡・古墳など精力的に調査・研究し、その成果は東京の学士会館や大阪のリーガ・ロイヤルホテル等での史学会において発表するなど講演活動多数。温厚な中に向学心・真実探求の気概極めて高く、学者魂の横溢した生涯であった。

3. 特筆



我が国で初めて、古代文献の『先代旧事本紀』を漢文から和文に訳し注釈を付けたことは、数ある実績の中で際立った仕事であろう。特に、その中で今まで知られていなかった歴史の新たな見解を明らかにしたことが高く評価されている。

初期の大和朝廷においては、神武天皇の皇后「伊須気余理姫」の父「饒速日尊」を皇祖神として崇めていたが、天皇の存在を遥か高い神とするためには皇祖神も諸豪族たちの祖神とは別でなければならぬとのことでこれを替えて、神武天皇の祖母にあたる日向の卑弥呼＝大日靈貴尊の尊称「天照大神」を唯一の皇祖神とする歴史に改ざんされたことが考えられると氏は指摘した。

『先代旧事本紀』は、成立が平安初期とみられるゆえ、その内容よりも成立時期のことで論争され、江戸時代に偽書説が流されたため、今までその正当性が認められず、歴史学会ではほとんど研究されていない状況であった。そうした中において、研究に没頭して導き出した氏の仕事は特筆すべき大きな功績であると言えよう。